

スズムシ列車

青森県の津軽鉄道（愛称・津鉄）津軽五所川原〜津軽中里間20・7kmでは、9月1日から鈴虫列車が運転され、利用者の心を和ませている。この列車は34年前の昭和61年（1986）9月に津軽中里駅の駅員さんの発案で始まったと聞いた。昆虫学者は鈴虫を「虫のバイオリン奏者」と例えているというが、確かに旅心を誘う音色でもある。

鈴虫といえば以前、東京のJR上野駅でもその大演奏会を楽しんだ記憶がある。あの喧嘩な駅構内で聞いた楽しさは、不思議と未だに忘れられない。岡山駅や飯山線越後丸駅、美祢線厚保駅、小野田線小野田駅などでもその演奏に遭遇した。どれもこれも育ての親は駅員さんで、言ってみれば彼らは演出家だったのだ。こうした話題に触れることが少なくなった気がしてならない。いつまでも残暑が居座っているせいなのか、はたまた世の中が忙しすぎるのか。

2020・09・11

鉄道ホームドクター

国交省関係の鉄道・運輸機構（JR-TT）発行の季刊誌『鉄道・運輸機構だより』のNO.66夏季号には特別企画「地域鉄道の現状と支援策」が掲載されている。経営改善に有効な事業構造の変更、財政支援等々実例をあげながら支援策を紹介するとともに、同機構による鉄道施設の保全、改修に際しての技術的アドバイスを無償で行う「鉄道ホームドクター」制度の利用状況が掲載されている。

その利用内訳は、三セク48%、中小民鉄23%、地方公共団体15%、その他14%で、分野別では軌道・路盤関係12%、橋りょう関係21%、トンネル関係6%、GRAPE関係14%、助成・補助金関係14%、その他26%であった。「GRAPE関係」とは、機構独自の将来需要予測ができる交通計画支援システムで、沿線の将来需要予測におけるデータ解析の結果は、鉄道会社にとっては戦略を立てる手立てとなり、自治体にとっては地域の交通政策の展開に欠かせない。

2020・09・19

いつでも どこでも みんなのバス

9月20日は、「バスの日」。タイトル「いつでも どこでも みんなのバス」は、昭和62年（1987）9月20日の全国バス事業者大会で掲げられたスローガン。この機会に日本のバスについて少し振り返ってみた。

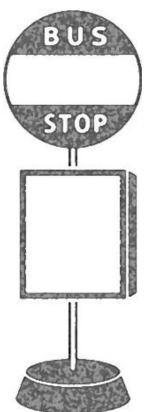
明治36年（1903）9月20日に京都市で最初のバス運行が開始されてから今年で117年になる。バスといえば観光バス記念日もある。これは大正14年（1925）12月15日に皇居前→銀座→上野間をユーランスというバスが走った日だということも、今とは違って路線バス扱いだったとか。そこで知人のバス通に問い合わせると、「九州・別府温泉の亀の井観光バスが大正13年（1924）に女性ガイドを乗務させて運転した。こちらが最初だろう」と指摘された。正直、戸惑っている。

今春、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団などによる第11回EST交通環境大賞が発表された。この奨励賞の一つとして熊本市のSAKURA MAC

H I D A T A Projectの「熊本県内バス電車無料化社会実験と検証」が受賞した。2019年9月14日に『熊本県内バス電車無料の日』を実施し、産官学連携で市街地活性化と環境負荷低減に寄与したことが評価されたもの。

地方経済の発展が望まれている時だけに、その内容に興味津々。バスや電車の運賃無料化が及ぼした外部経済効果は如何なるものであったか。その効果が大きければ無料での恒常的運行も可能となるはずだ。今の公共交通運賃の仕組みも大きく変わるのではないかと思いを巡らせる。

2020・09・20



塩狩峠

北海道上川郡和寒（わっさむ）町は、ふるさと納税の返礼に町独自の「塩狩駅カード」を用意している。JR宗谷本線塩狩駅といえば、女流作家・三浦綾子（1922 - 1999）の名著『塩狩峠』でも知られており、国鉄時代の殉職者、長野政雄氏（鉄道省旭川運輸事務所庶務主任）を題材にしたこの名著は映画化もされた。今も駅構内には遺徳碑があり、駅近くの三浦旧宅は塩狩峠記念館になっている。

長野政雄は明治43年（1910）2月28日、公務出張からの帰路に事故にあった。塩狩峠で突如最後尾客車の連結が分離して暴走、長野は身を挺して停止させ、乗客、乗務員は無事だったが、自らは犠牲になった。クリスチャンの彼は常に「苦楽生死均しく感謝」の遺書を懐中にしていたと聞く。事故から60年を過ぎて同じクリスチャンでもあった三浦が彼を主人公とする『塩狩峠』を著わし、多くの共感を呼ぶと共に感動を今に伝えている。

2020・09・23

玉南電気鉄道記念之碑

鉄道記念碑を神社仏閣の境内で目にすることは、まず稀だ。ところが東京・日野市の名利・高幡不動尊金剛寺境内に『玉南（ぎよくなん）電気鉄道記念之碑』があった。同寺は、千葉県の成田山新勝寺などと共に関東三大不動尊として参詣者が絶えない。石碑は目測で高さ約5m、幅約2m。新選組の土方歳三の生誕地も近くにあるため、その立像と隣り合わせに立っている。建立は昭和2年（1927）10月で、撰文は京王電鉄初代社長の井上篤太郎氏。

玉南電気鉄道は、大正11年（1922）に府中、八王子などの沿線住民の協力で設立され、大正14年（1925）3月24日に府中〜東八王子（現・京王八王子）間を开通させた。のちに京王電鉄と合併、その経緯が碑文に刻まれていた。最寄りの高幡不動駅は高架化され、周辺も開通当時と一変している。この境内で玉南電気鉄道の開通式が行われたと話す人もいるが、京王電鉄の社史などでは確認できなかった。名利と鉄道史、この関係は面白い。

2020・09・27

竹筋コンクリート橋りょう

三セク・松浦鉄道は、佐賀県有田町と長崎県佐世保市間⁹³・8 kmの単線非電化路線。駅数⁵⁷で、沿線の人々は「MR」の愛称で呼び親しんでいる。陶磁器でお馴染みの伊万里焼、有田焼も佐賀県内の沿線に窯元がある。その陶磁器を輸送するために伊万里鉄道として有田〜伊万里間を明治31年（1898）に開業した。また石炭輸送を目的に佐世保軽便鉄道として相浦〜大野（今の左右）間が開業したのは大正9年（1920）。古い鉄道の歴史を持つと共に風光明媚な沿線を有する。

64

佐世保方の潜竜ヶ滝〜吉井間2 kmに福井川橋りょう（67・06 m）、吉田橋りょう（58・00 m）、吉井川橋りょう（45・86 m）の3つのコンクリートアーチ橋が架かっている。ところで、これらは鉄筋ではなく、どうも竹筋コンクリート造りらしいという。建設年が全て戦前で、当時の鉄不足を補うために竹が用いられたと証言する住民もいるとか。そこで平成16年に電磁波調査、同18年にコア抜き検査をしたが、確証は得られなかった。そうした経緯はあるものの国の登録有形文化財になっている。

まずは無事故の陰に保線マンなどのご苦勞が重ねられて来ていることに感謝したい。

同線の佐世保中央駅〜中佐世保駅間は、筑豊電気鉄道の黒崎駅前〜西黒崎駅間と並んで駅間距離200 mの日本一短い鉄道駅間距離を誇る。ちなみに軌道法の適用を受ける路面電車では、ときでん交通の一条橋停留場〜清和学園前停留場間（63 m）が最も短い。あれこれ実際にこの目で確かめたく、旅心をくすぐられるMRだ。

2020・10・05



65

みそ汁ばあさん

50年前の東京オリンピックを控えた頃、「一度みそ汁ばあさんの所へ行って直接話を聞いて来い」と先輩に勧められたけれども実現しないまま過ぎてしまったが、凡その話は以下のとおりだ。

北陸本線糸魚川駅構内に通称・信州踏切があった。その踏切の近くに田所フキさんという当時80歳代の女性が住んでいた。「昭和5年から33年間、一日も休まず踏切保安掛の詰所に熱いみそ汁とお菜を届けた」というのが話の筋で、「たとえどんなに些細なことでも、これほど長く奉仕を続けたことの誠実さと根気、その尊さを実感して来い」というの先輩の真意だった。

フキさんの奉仕の動機は、冬のある日、年老いた踏切掛が風邪をひいて詰所で寝込んでいたのに、列車の時間が来ると外に出て安全を確認している姿を見たことだった。熱いみそ汁を飲めば回復を早めるだろうと思つての行動だった。踏切掛は人事異

動で交代するが、彼女はその行動を止めることをしなかった。そうして33年もの間続けたのであった。もちろん、国鉄金沢鉄道管理局長はこの行為に対してお礼と表彰を行なったという。人情の薄きこと紙の如くの風潮が進む中で、これほど誠実な人が居たことが嬉しく、直接お会いして我が心の中に深く刻み込んでおきたかった。返すがえすも残念であった。

2020・10・06

